

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の



イラスト
小熊真二さん

ほうちゅう かん あんちゅう めい

“忙中閑あり 暗中明あり”

ほたるび
～ 萤火 ～

その 46

蛍の種類は、世界には約2,000種、日本に生息する蛍は40種ほどで、その中で光るのは約10種。ゲンジボタル（源氏蛍）、ヘイケボタル（平家蛍）がよく知られています。

蛍は腹の後端部に発光器を持っていて、夜になるとその部分が青緑色に光りますが、発熱しないので冷光と呼ばれています。

昔は「ほう、ほう、ほうたる来い」などと歌いながら蛍見物をするのが初夏の風物詩でした。「萤火」「初蛍」「宵蛍」「蛍船」「蛍籠」などの美しい言葉が残っています。

また、「蛍合戦」といって、無数の蛍の大群が乱舞することがあり、美しく、壮観です。

蛍が光るのは恋の信号であることは昔の人も知っていたのか、平安の昔から和歌や物語の世界では、蛍は恋愛の場面によく登場します。また、人の怨霊が蛍になるという伝説も各地に残っています。

もの思へば 沢のほたるも わが身より
あくがれ出づる たまかとぞ見る
(和泉式部)

能代市長 齊藤 滋宣



7月6日、サンピノで、開設10年の記念講話を行いました。